

気仙沼市民生委員児童委員協議会

(平成 25 年 2 月 14 日掲載)

(1) 気仙沼市民児協の被災状況

東日本大震災による津波により、本会の委員 183 名のうち 4 名が亡くなり、61 名が家屋損壊の被害を受けるなど、本会におきましてもまさに甚大な被害となりました。

委員自身が避難所や仮設住宅へ転居したり、他市町への転出を余儀なくされたり、担当地区自体が消滅した地域もあります。

(2) 鹿折地区民児協の震災後から現在までの様子

鹿折地区(震災時に火災映像が流れ、いまだに 300 トンの漁船が乗り上げたままの地域)では、地区民児協会長が被災した建物を無償で借り受け、平成 23 年 12 月に電気店を再開しました。その際に、片側のスペースのひとつを警察署に掛け合って「駐在所」に、もうひとつを地域コミュニティサロン「サライ」と命名し開設しました。集会所としてはもちろん、地区民児協定例会場、児童の自習の場、写経・書道・料理教室、催しもの会場等として大いに活用されています。スクールバスの停留所にもなりました。

また、これまで3年間にわたり、活動費を財源として買い集め、地区の公民館に設置した「愛の小鳩文庫」コーナーの絵本や児童書が、津波ですべて流失してしまいました。それを助成金で 500 冊揃え直し、「サライ」に復活させつつあります。現在ユニセフと交渉しており、合計で 1,000 冊以上になる見込みです。また、震災前から実施していた人形劇団を呼んでの幼児と高齢者の世代間交流事業の再開も予定しています。いろいろな助成事業を活用することにより、人と人とのつながりを大事にしていくことをめざしています。地区の民生委員・児童委員、事務局とも大忙しの毎日です。



コミュニティひろば「サライ」前でのイベント開催



「サライ」の中での仮設住宅の子どもを中心とした勉強会の様子

(3) 他地区民児協での活動

各地区の民児協も仮設住宅や地域での交流会などを企画し、継続的に実施しています。

交流会で男性の参加が少ないと、「マージャン・囲碁将棋大会」を開催し、26名の参加を得て、次は女性の皆さんにご協力いただき、「男の料理(おむすび)教室」を企画し、26名の男性を取り込む算段をしましたとの報告も届いています。

(4) 終わりに

ここまで前を進んでこられたのも、全国の民生委員・児童委員の皆様からの暖かいご支援があったればこそと感謝しております。

【気仙沼市民児協のこれまでの動き】

平成 24 年

4月： 津波で全壊となった、気仙沼市民児協事務局でもある気仙沼市社協事務所が、共同募金会の資金援助により軽量鉄骨造2階建てで市内内陸部に建設移転しました。

6月： 気仙沼市社協の生活支援相談員が、応急仮設住宅訪問だけでなく、それまで情報の少なかった民間賃貸住宅に住む被災者へ訪問活動を始めました。その初回訪問の際に、民生委員・児童委員が同行することにより、その後の継続訪問がスムーズにできるようになりました。

津波の被害がなかった地区では、逆に被災者が住まいを求めて移り住み、地区によっては472世帯が「みなし仮設住宅」（民間賃貸住宅借上げ制度により家賃は国庫補助）へ入居しています。市内全体で1,354世帯数です。

10月： 昨年は中止となった「赤い羽根共同募金」の街頭募金に民生委員・児童委員が例年どおり参加しました。震災前と人の流れが変わり、各地区で場所の選定に苦慮しました。また、2日目は生憎の悪天候にもかかわらず、市民の募金への意識の現われか、一昨年の実績を超えました。

11月： 津波により亡くなった気仙沼市の4名の民生委員・児童委員に対し、宮城県から「公務災害認定」がなされました。

12月： 12月現在で、民生委員・児童委員定員159名中8名が、主任児童委員定員24名中2名が欠員です。ただし、推薦母体の自治会が解散したり休止したりの状態にあります。

233自治会中被災自治会数は132、震災後活動休止は49、解散は3となっています。今年12月の一斉改選が危惧されます。

しかしながら、住民がばらばらになっても、自治会の伝統行事を復活させ、集いの機会を設け、絆の確認をする自治組織も多数できました。